

すべて一本勝ちである。これで波に乗った。二試合目は試合巧者が揃う岡山。このチームには、前出の安達選手の活躍もあり1対2で惜敗する。しかし、この敗戦は選手たちの団結心を煽り、残り試合へ闘争心に火を付けるものになった。鳥取戦も3対1と勝利し、残すところ最大の難敵広島戦となる。広島はここまでで全勝しているのに、「最悪引き分け」を計算しているであろう。島根は絶対に勝たなければならず、薄氷を踏む思いの試合であった。結果、前3人で勝負を付ける圧勝で、初の中国地区1位を勝ち取った。

女子も初戦鳥取に4対0で好スタートを切った。選手層の厚い広島には前で2点先取されて窮地に追い込まれたが、副将石原選手、大将の小山内選手が闘志あふれる試合で一本勝を収め、引き分けに持ち込んでくれた。この引き分けが本大会の山場であったと回想する。強豪岡山には1対4で敗れ、1勝1敗1分けで山口との2位をかけた最終戦へと進む。山口は2勝1敗できており、島根は勝たなければいけない。本選出場の足かせとなっている状況で、死力を尽くすことになった。先鋒田口選手の引き分け後、次鋒三浦選手が終始攻め続け、試合終了間際に一本勝ちを収める。この三浦選手の魂のこもった戦いに勇気付けられた中堅福田選手、副将石原選手が共に一本勝を獲り3対1で勝利。終わってみれば、山口と2勝1敗で勝敗は同数であったが、一本勝の多さで2位に位置した。勝利への執念が一本勝に表れた素晴らしい内容で大会を終えた。試合後、喜びと緊張感から解かれた女子選手たちの涙を見たとき、43年前のくにびき国体準優勝の涙に似たものを感じ、万感胸に迫るものがあった。

今年の国スポブロック大会の出来事は、43年前のくにびき国体以来の全パート出場となり、県連会員をはじめ、当時関わった関係者、少年成年の選手等の喜びははかり知れないものとなった。咲き誇る百日紅に劣らない、色鮮やかな思い出が蘇るものとなった。

最後に、本大会での選手の活躍を祈ると共に、あと6年後に迫る島根かみあり国スポの成功に繋げていきたいと願うものである。

会員皆様のご更なるご支援、ご協力をお願いします。